

令和4年度久留米市障害者地域生活支援協議会

第1回施策推進部会 議事録

次 第	1 開会あいさつ 2 委員紹介 3 報告事項 (1) 各分科会事業報告及び事業計画について ①おとな分科会 ②こども分科会 ③当事者分科会 ④重心分科会 ⑤相談分科会 4 協議事項 (1) 令和4年度相談分科会勉強会について 5 その他 6 閉会
開催日時	令和4年10月13日(木) 18:30~19:40
開催場所	ZoomによるWeb会議
出席者 (敬称略)	相談分科会：サポートセンターTANOSHIKA、Q-ACTくるめ おとな分科会：福岡県障害者雇用支援センター、さくら相談ステーションくるめ東、 地域活動支援センターフロンティア こども分科会：社会福祉法人こぐま福祉会、他1名 当事者分科会：当事者2名 重心分科会：相談支援事業所夢の紀、相談支援事業所 バンビーノ
欠席者 (敬称略)	なし
内 容	1 開会あいさつ ・事務局紹介 ・11名中11名参加にて会議成立。 2 委員紹介 ・新委員の紹介 <事務局> ・傍聴なし

3 報告事項

(1) 各分科会事業報告及び事業計画について

<部会長>

- ・分科会会長より事業報告、今年度の事業計画の説明を行ってほしい。

<おとな分科会：分科会長>

- ・資料1-1を用いて説明

<部会長>

- ・就労というテーマから分科会の活動を始め、現在は転換期にあたると思う。活動内容が働くだけに留まらずに、今後活動を行っていくと受け止めた。

<こども分科会：分科会長>

- ・資料1-2を用いて説明

<部会長>

- ・説明を聞き、インフォーマルの団体が多数あることを知ることができた。また、りんごマップで支援団体を視覚化されており、今後は次のステージに行かれるのだろうと思う。不登校の問題、子供たちが力をつけていくということも含め、ぜひ取り組んでいただきたい。

<こども分科会長>

- ・今のメンバーだけでは活動の限界もあるので時間はかかるかもしれないが、形にしていきたいと考えている。

<当事者分科会：委員>

- ・資料1-3を用いて説明

<当事者分科会長>

- ・普段は地域活動支援センターのぞえの杜を拠点に、精神障害の方々とよく関わっている。身体に障害がある人は目に見える障害だが、精神の障害は目に見えない。一般就労に結びついて、障害者から先に解雇されていると聞く。精神の方々も、きつい思いをしているのを知った。いろいろな人の意見を聞く中で、目から鱗が落ちるような時もある。分科会でも、当事者や職員の方々との意見交換で、視野が広がっている、これからも続けていきたい。

<委員>

- ・ある統計では、5人に1人が何らかの精神疾患を経験していると聞いている。どのような人も対象になりうる障害であると認識している。私が気になっているのは、このままだと、支援をする人、される人が増え続けてしまうのではないかとということ。
- ・「支援する、支援される」の関係に目を向けて、関係づくりのあり方について考えていきたいと考えている。

<委員>

- ・最近、障害当事者が専門職としか関わらないようになってきて、障害者と関わることのハードルが高くなっていると思う。例えば、発達障害について熟知しておかなければかかわれないなど。私は今まで事業所の運営をしてきたが、違う障害について専門

的な勉強をし、熟知しているわけではない。しかし、何となく付き合えていると思っている。「その人」の理解は、人それぞれあるのではないかと考える。

- ・当事者は、支援者に目標を左右されがちであるとも思う。支援する側からの見方は、一つの価値観であって、そうでなければならないというものではない。「そのままでもいい」という考え方があっても良いのではないか。「少しでも健常者に近づくことが良い」という価値観になってしまいがちではないだろうか。根本から、障害の捉え方を考え直す必要はあると思う。

<重心分科会：分科会長>

- ・資料1-4を用いて説明

<部会長>

- ・重心分科会の活動は、国のモデル事業から始まって地道に積み上げている。災害に対して準備の足りない方や実数の把握まで取り組んでいる。災害への対応という点においては、重心の方に限らずという部分もある。引き続き活動をお願いする。

<相談分科会：分科会長>

- ・資料1-5を用いて説明

<委員>

- ・相談支援は、コーディネートの仕事。サービスにつなぐだけでは、予算に限りがあり限界がある。国の予算はこの13年間で約3倍になっていると聞いた。健常者が利用しているところでも障害者を受け入れていくことが必要なのではないか。現にあるものを利用していくという方向性も必要ではないか。
- ・自分の趣味趣向があうところに、障害者自身も参加する、アプローチすることも必要ではないか。実際に、地域活動支援センターに通っている人で、一般の絵の教室に通っている人がいる。その人がいることで、その教室の雰囲気が変わってくる。例えば、その人のペースに合わせて行われるなど。既存のサービスだけでないアプローチが今後必要になってくると思う。いろいろなところに障害者が絡みき、絡みつくことによって社会を変えていくことができる。

<委員>

- ・健常者が普通に使っている社会資源を、障害者が普通に使えるようにしていくことも大切であると考えている。サービス等利用計画に「等」がついていることは、その所以でもある。そのためにも、相談支援専門員の質を上げていくことを考えている。

<部会長>

- ・地域を知っていないとマネジメントも出来ない。あらためて相談員の皆さまにもこのことを伝えていっていただきたい。

<委員>

- ・学校とは子供たちに「生き方」の価値づけ、方向性を提供していく場であると思う。以前、学校では働くことで社会貢献を行うという方向性を提供してきた。今日の話聞き、働くこと生産性が高いことがいい生き方と、ダイバーシティは若干ずれていくかもしれない。

- ・これからは、多様な生き方を大事にするということを、子供たちに教えていく必要があるのかもしれない。やれることをやっていくこと、みんなが認め合っていくこと。
- ・しかし、多様な価値観を子どもたちに伝えていくのは難しい。多様であっていいんだよということを、どうやって伝えていけばよいのか。現職の先生にこの場に来て、これから模索していってもらいたい。多様な価値観を認めていく上で、学校のできる事は何か、学校にそのことを伝えていくことが大事になってくると感じた。

<委員>

- ・私自身も働くことが良いという価値観はある。しかし、働けない人もいる。働けない人が排除される社会になってはいけないということ。一方で、働き続ける現役世代の人達が本当に幸せだろうかとも思う。

<委員>

- ・大人が教えていくというよりも、障害者と一緒に生活する中で成長していく面がある。一緒に過ごせる環境をつくっていくこと。動ける医療的ケア児については、制度から漏れているところがある。そこから預けるところがない等の問題も聞く。そのような地域の課題を調査しながら、一人も取り残されない社会になればと思う。

<部会長>

- ・目標設定は明確になっているので、分科会ごとに進めていっていただきたい。

4 協議事項

(1) 令和4年度相談分科会勉強会について

<分科会長>

- ・資料2を用いて説明

<部会長>

- ・相談支援専門員の質の向上について。今後、研修後の後追い、つまり質の評価を誰にしてもらうのかということを検討してもらいたい。
- ・相談分科会の提案事項に関して、賛成の方は意思表示を。

⇒賛成多数の意思表示あり。

<部会長>

- ・それでは、「令和4年度相談分科会勉強会について」は原案の通りで承認とする。
- ・以上で審議終了

5 その他

- ・特段なし

6 閉会

以上